

五常五倫名義

全

9
3416

入常名義

東都字子室出清者



仁^ニ 天^{テン}に元^{ゲン}亨^{カウ}利^リ貞^{テイ}とて皇^{シキ}帝^キにのぞくはれ徳^{トク}有り
徳^{トク}といふ不^フ貞^{テイ}なりとて道理^{ダウリ}といふもなる理^リ人^{ジン}不^フ貞^{テイ}なり
仁^ニ義^ギ礼^{レイ}智^チなる其^シ用^{ヨウ}にた天^{テン}よりしては云^{アタ}ふ由^ユりて
元^{ゲン}亨^{カウ}利^リ貞^{テイ}なる陽^{ヤウ}氣^キれ故^コ生^{セイ}とる乃^ナ理^リなるを故^コ生^{セイ}とる
乃^ナ理^リなるを故^コ生^{セイ}とる乃^ナ理^リなるを故^コ生^{セイ}とる乃^ナ理^リなるを故^コ生^{セイ}とる
仁^ニにたる故^コ不^フ過^{カワ}和^ワ慈^ジを以^オて其^シの氣^キれ過^{カワ}れぬが
びくふて人^{ジン}成^{セイ}ふに嫌^{アハレ}む人^{ジン}とて石^シに

カミコトモハ情^{コノナサケ}ノ衣^{アハレ}ヲ着^キルハ好^{ウレホ}ミナキトシ
カミコトモハ情^{コノナサケ}ノ衣^{アハレ}ヲ着^キルハ好^{ウレホ}ミナキトシ
カミコトモハ情^{コノナサケ}ノ衣^{アハレ}ヲ着^キルハ好^{ウレホ}ミナキトシ
カミコトモハ情^{コノナサケ}ノ衣^{アハレ}ヲ着^キルハ好^{ウレホ}ミナキトシ
カミコトモハ情^{コノナサケ}ノ衣^{アハレ}ヲ着^キルハ好^{ウレホ}ミナキトシ

義

天^{アマ}ノミナモトハ秋^{アキ}ノヨリテ利^{リキ}名^ナハク法^{ホウ}義^ギヲ辨^{ハナ}ス
乃^ナ理^リカ^カリ南^{ナン}穀^{コク}ハ草^{ソウ}木^{モク}ノ義^ギヲ有^{ユウ}一^{イチ}實^{ミツ}ヲ結^{ムス}ヒテ
乃^ナ物^{モノ}トシト屈^{カハム}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}
ナリ乃^ナ理^リヲ通^{ツウ}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}
ナリ乃^ナ理^リヲ通^{ツウ}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}

トノハ更^イビ一^{イチ}ニカミナモトハ秋^{アキ}ノヨリテ利^{リキ}名^ナハク法^{ホウ}義^ギヲ辨^{ハナ}ス
乃^ナ理^リカ^カリ南^{ナン}穀^{コク}ハ草^{ソウ}木^{モク}ノ義^ギヲ有^{ユウ}一^{イチ}實^{ミツ}ヲ結^{ムス}ヒテ
乃^ナ物^{モノ}トシト屈^{カハム}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}
ナリ乃^ナ理^リヲ通^{ツウ}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}

禮

天^{アマ}ノミナモトハ秋^{アキ}ノヨリテ利^{リキ}名^ナハク法^{ホウ}義^ギヲ辨^{ハナ}ス
乃^ナ理^リカ^カリ南^{ナン}穀^{コク}ハ草^{ソウ}木^{モク}ノ義^ギヲ有^{ユウ}一^{イチ}實^{ミツ}ヲ結^{ムス}ヒテ
乃^ナ物^{モノ}トシト屈^{カハム}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}
ナリ乃^ナ理^リヲ通^{ツウ}ス事^{コト}ナリ其^{ソノ}通^{ツウ}理^リト人^{ヒト}ノ受^{ウケ}テ義^ギ
トモ及^{サヘ}テ裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}トモ衣^イ被^ヒカ^カズト裁^{サイ}判^{ハン}断^{タン}審^{シン}判^{パン}

して已を後りともか月小行ふ事何事にも比其
程ふ何れりく少く月ジユウを伸く老く一なる振舞フルマヒな
く又疎略ソリヤクにて後意クワンタイなる事たるを礼とせり

智

天下を以て全にありて負へるはく陽氣イサウの牙
こる乃理なり因縁の草木根入るをまけりも元
よりくこくを方物トダと云ふ事其乃理と
多く智と云ふ故不足ゼヒと云ふ事其乃理と
是れ何れも云ふ事其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事
氣キ不フたふものさる事其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事

氣れ地下小深く潜ヒリありて其の氣を成ナリはる
乃に神カミなる肉の根入て其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事
と云ふものさる事其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事

信

天下を以て全にありて負へるはく陽氣イサウの牙
こる乃理なり因縁の草木根入るをまけりも元
よりくこくを方物トダと云ふ事其乃理と
多く智と云ふ故不足ゼヒと云ふ事其乃理と
是れ何れも云ふ事其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事
氣キ不フたふものさる事其乃理と云ふ事其乃理と云ふ事

其の才力以て人小交のに劣るはぐま金に劣りて
肉小私と稱ふべしに飾と事とせむと人小理の
一節を守りて始終愛せむと信と子道一

右五常名義所奉

旨撰進也夫五常人心所具之理天下之大本也方其在中
雖一源湛然不波及其感物則脉理井然不紊但舉世習而不
察行而不著雖武人俗吏開口輒說仁義礼智而至於名義之精
猶昧乎無聞焉宜其逆施倒行而莫之覺也今以國字疏其
義述為數語而揭示之其或有察於此矣乎若幼學之徒又
以此代習字之帖晨夕誦誦之翫目熟耳庶幾開發良心以
助養正之功又右人小學之意也

室直清謹跋

人倫名義

父子有親

天下にいつくもの人の心をけく人倫といひ其上に名
教をほけて教ふこと同父母の子をすする天
地の万物をすする理之徳て父子有親を定むと教ふ
て父子有親といひ子に孝といふ父を云ふ母を云ふは
ふべし教ふ父母のふとの子ををせむとすは必教而後
義目おれも心徳てふと不教小偏むは是極極れ
電てふ教れふとせむとふと教れぬはは父なる
有と衣食は養ひ教ふは徳とふとたふすて身を保て母

君臣有義

子あり又臣の忠よりも日夜勤勞する
 キンラウ
 此後

何れ只ま事を以て君ははるくはてな公に表表
 かを云之但を留意を以て君ははるくはてな公に表表
 是れ義の理の國を以て君を以て國人を以ては
 を以て威勢の國を以て國人を以ては
 かを以て君ははるくはてな公に表表
 是れ義の理の國を以て君を以て國人を以ては
 を以て威勢の國を以て國人を以ては
 かを以て君ははるくはてな公に表表

文端有別

天小陸陽海^{インヤウ}人小文婦^{コブン}の陸陽^{リョウ}秋^{アキ}今^{イマ}て万^{マン}國^{コク}と生^{セイ}

育イクとて夫婦和合して子孫を生ずる夫人理を智ず
 小陰陽偏シヤウバウ随ズイ及シ陽を主と陰を偏イザナひ陰を主とて陽
 比ヒを主とす又自然シゼンの理に依りて夫婦の偏を定む
 はこの文を割カウてはゞ中セイを主とす夫婦の偏を
 容ヨウ也ニョク不違フタヒを公コとす夫婦の貞テイ中セイとて一筋に靜シヅカ成ナルる成
 中ナカ也ナふまに志シをひきつゝ寵チュウを以モツてはる事あるべし但
 其ソノ爲タメをいふと夫婦和ハふ睦ムツは皮カウふ男女サナノコの交カウを
 中ナカ意イとすべし男オトコの外ソトを以モツて其ソノ内ウチを以モツて女メは以モツて
 女メは其ソノ内ウチを以モツて男オトコの外ソトを以モツて其ソノ内ウチを以モツて
 女メは其ソノ内ウチを以モツて男オトコの外ソトを以モツて其ソノ内ウチを以モツて

了字を不爲の法に定めて霜史叔別阿りと云ふ句
永く夫婦に授くるなり

長知有序

父母有りては子と云ふこと一先いするを長し後あるを初
に兄弟と云ふ事同一なり兄弟の同く父母
此造肝と云て大切なるもの也是によりて長幼の倫成
立して兄弟を尊ぶ事一才は兄を取らざるをたむす
父母死て後は父母の形もなきを今迄に兄弟が互に形
影離れざる如く思ひつゝて未だ海客と云ふべからず
昔蒙といふ兄弟天倫とて始てせれるるを夫れ家

乃て決すを以て悔ふは決すのみならず此たにハ寵を
得る事なる同様れども先きく家督を傳ふるは又何
ほ哉^{サイチ}若し是の才光も是の心志なりとせば決す中
より一てハ此禍も亦なく物に在り人長初れ居ん
がて席れ一字を不易の法と定めて席ハ決す可也之
謂長初席なりといふ句味も未知れ候るへー

朋友有信

天下の人と同じく天地の氣を受けて生ずるは亦友に
て交ふ^{セム}なり程あり是によりて朋友は^{ハウイウ}傷と立並て仁を大
すけ^{タスク}きと貴を^{セム}を朋友れたるは已行ふ^{タスク}私を事へては^{タスク}損

[illegible]

卿者恭養

明旨國字疏五常名義繼有

後命又令疏五倫名義如前撰進夫五倫人生所行之道
天下之大經也天生烝民必有五常之性則有五倫之道
聖人之教亦脩此而已自舜命司徒敷五教後聖王迭
起建學立師以明之降及三季之後治教日弛於上倫
不明於下風俗衰頹職此之由今此辭也以考於古
賢之訓以施於今則將無霄旻之憂視者尚無以老耄
之言忽之哉

享保癸卯冬十月既望

室直清謹跋

